

指導のポイント

★言語活動を通して、以下の資質・能力を育成すること。

- ・登場人物の行動や言葉の意味を話の展開と関連付けて考える。
- ・登場人物の言動の意味を自分と関連付けて考える。

(文学的文章においても、例えば、登場人物の行動や物語の展開の意味を考えたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認したりするなど、批判的に読むことが重要である。)

「学習指導要領解説 国語編」より

学習課題 『故郷』あなたに贈るこの一遍

ねらい [第3学年]〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと(1)
イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

言語活動 [第3学年]〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと(1)
イ 詩歌や小説などを読み、批判したり、考えたことなどを伝えあったりする活動

単元計画

時数	学習内容	評価方法 評価する内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「故郷」を読んで、登場人物の生き方・考え方にぴったりの詩を送り、文集にすることを旨とする。 ○別の作品で例を示し学習問題を考える。 (作品例:「走れメロス」) ○学習活動とめあてを確認し学習計画表を作成する。 	<p>見いだす</p> <p>学習計画表 [主体的に学習に取り組む態度]</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の生き方や考え方に焦点を当てて「故郷」を読む。 ○授業者の提示した詩を読む。 ○登場人物のうち誰に着目したか、提示された詩のうちどのような詩を贈りたいか友達と共有する。 	<p>自分で取り組む</p> <p>ノート 原稿用紙 [思考・判断・表現]</p>
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館で、様々な詩を読み、詩の選択肢を広げる (学校司書との連携・学校図書館の活用) ○原稿を作成する。(原稿用紙) 	<p>原稿用紙 [知識・技能]</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○原稿を読み合い、互いの内容を確認する。 〔確認ポイント〕 ・複数の場面を関連付けているか。 ・詩の解釈(選んだ理由)が書けているか。 ・自分と関連付けているか。 	<p>広げ深める</p> <p>原稿用紙 [知識・技能]</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT端末を用いて作品を清書し、作品集にして共有する。 ○単元全体を通して、「何ができるようになったか」を振り返り、次の読書につなげる。 	<p>まとめあげる</p> <p>学習計画表 [主体的に学習に取り組む態度]</p>

【作品例】 『走れメロス』
暴君ディオニスに贈るこの一遍

「一ばんみじかい抒情詩」 寺山修司

なみだは
こんげんのつゝぬじゆのじけぬ
一ばんちいさな
海です

私は、暴君ディオニスに、寺山修司の「一ばんみじかい抒情詩」を贈ります。理由は、この詩から感じる無限の悲しみが、ディオニスの、誰にも理解されない孤独を表現していると思ったからです。

ディオニスは、身近な人を次々と殺す邪知暴虐の王ですが、「疑うのが正当の心構えなのだ」と、わしに教えてくれたのはおまえだ。と言っています。このセリフを読んだとき、私は、ディオニスの心は悲しみに満ちていると感じました。その悲しみはあまりに深く、それは荒れ狂う怒りとなってディオニスを飲み込んでしまったのだと思います。しかし、ディオニスは、メロスによって救われました。「わしも仲間に入れてくれまいか。」と言ったディオニスの赤らんだ顔の様子を想像し、信頼と真心を、誰よりも求めていたのは、ディオニスだったのではないかと私は考えました。

この詩にあるように、一滴の涙の涙がつくる海はとても小さなものかもしれませんが、その海に飲み込まれてしまった人は不幸だと思いました。わたしも、この詩と『走れメロス』を胸に、悲しみの海に飲み込まれないよう、人の信頼と真心を信じていきたいと思えます。

• 贈る人

• 贈る詩の視写

• 端的に理由を述べる。

• 登場人物の行動や言葉の意味を話の展開と関連付けて考える。

ここが
ポイント！

• 登場人物の言動の意味を自分と関連付けて考える。

「故郷」あなたに贈るこの一遍 参考：詩一覧

【魯迅へ】 「前へ」大木実 「道程」高村幸太郎 「未来へ」谷川俊太郎

「小景異情—その二」室生犀星 (ふるさとは遠きにありて思ふもの)

「それだけでいい」杉みき子 (希望というものが この世にあること を信ずる)

「岩が」吉野弘 (むしろ卑屈なものたちを 押し流していた)

「帰郷」萩原朔太郎 (過去は寂寥の谷に連なり 未来は絶望の岸に向へり)

【閩土へ】 「ぼろぼろな駝鳥」高村幸太郎 「よごれっちまったかなしみに」中原中也

「雨ニモマケズ」宮沢賢治 「はたらけどはたらけど…」【短歌】石川啄木

【楊おばさんへ】 「自分の感受性くらい」茨木のり子

「私が一番きれいだったとき」茨木のり子 「わたしを束ねないで」新川和江